

王寺町がめざす義務教育学校の学び

義務教育学校推進委員会の報告



はじめに

王寺町では、『教育のまち王寺』を実現するため、その基盤となる義務教育学校（小中一貫教育）の整備を進め、令和4年4月の開校を迎えようとしているところで

す。

義務教育学校の開校に至るまでの経緯としては、平成28年5月に学識経験者や住民代表など7名の委員で構成する「義務教育学校設置検討懇話会」を開催し、本町の今後の義務教育のあり方について、意見を交わし議論を重ねていただき、懇話会の総意として、「未来を担う子どもたちに充実した学びの環境を提供すべきであり、義務教育学校を設置すべきである。」との結論に至りました。

これを受けて平成29年8月より、学識経験者や住民代表、学校関係者など25名の委員で構成する「義務教育学校推進委員会」において、教育課程、施設・設備、総務の3つのプロジェクトチームにより、調査研究を行い、その報告、提案を委員会で協議しながら、本町に相応しい義務教育学校の設置に向けて準備を進めていただきました。

平成30年8月と令和元年8月には、王寺町内の幼稚園・小学校・中学校に勤務している教職員による合同研修を実施し、義務教育学校開校に向けて「どのような子どもを育てたいか」、「どのような教育活動を行いたいか」、「地域とともにある学校にするにはどうすればよいか」、そして、「12年間教職員がつながる指導を行うにはどうすればよいか」というテーマで議論し、目ざす子ども像や具体的な取組について議論を深めていきました。

また、平成30年度から各教科等における9年間のカリキュラムの作成や義務教育学校だからこぞできる特色ある取組についても、町内の小・中学校教員で、検討を重ねてきました。

さらに、教職員や保護者の皆さんに、すでに義務教育学校を設置し、様々な教育活動に取り組んでいる先行校（施設一体型：和歌山市立伏虎義務教育学校・京都市立凌風小中学校 施設分離型：京都市立東山泉小中学校）の視察をしていただき、義務教育学校の特色や取組について実際に感じ取っていただきました。そして、通学路や制服、時間割等の検討にも参加いただき、義務教育学校が子どもたちにとってよりよい学びの場となるよう、ご意見を伺いながら開校に向けての取組を進めてきました。

いよいよ開校の年を迎え、本町が目指している義務教育学校での教育についてお示しし、今後とも未来を担う子どもたちの「生きる力」を育む教育のさらなる発展をめざして取り組んでいくことの決意を新たにさせていただきたいと考えます。

令和4年3月

目 次

1	義務教育学校の学校教育目標	1
2	本町の義務教育学校で取り入れている4-3-2制のねらい	1
3	義務教育学校(小中一貫教育)ですすめる教育活動	3
4	特色ある施設・設備.....	8
5	王寺義務教育学校のランドデザイン	14
6	校歌	15
7	校章	17

1 義務教育学校の学校教育目標

(1) 学校教育目標

『学び続けて未来を拓く』

～自律・挑戦・協創～

(2) めざす子ども像

・習得期(1年生～4年生)

「主体的な学びの基礎を身に付け、自分のことは自分でできる子ども」

・充実期(5年生～7年生)

「主体的に学び、自分の考えを積極的に表現できる子ども」

・発展期(8年生～9年生)

「自分の個性や能力をいかした生き方を探求し、学び続ける子ども」

2 本町の義務教育学校で取り入れている4-3-2制のねらい

(1) 子どもたちの心身の発達段階に応じた学年の区切り

・前期(1～4年生)習得期

学級担任制によるきめ細やかな指導を通して、基本的な生活・学習習慣の定着を図る。

基礎的な学力の定着を図る繰り返し学習を重視する。

・中期(5～7年生)充実期

一部教科担任制※(理科、算数、英語等)による専門性の高い指導により身に付けた知識や技能を活用する力を育成する。

子どもたちが感じる小学校から中学校への段差、いわゆる中1ギャップの解消を図る。

部活動への参加など、従来の中学生在が行っている活動を経験することにより、中学校の生活、上級生への不安の解消を図り、希望を育む。

※教科担任制・・・1人の教員が担任する学級すべての科目を教える学級担任制に対し、教科ごとに専門の教員が指導する教科担任制がある。

・後期(8~9年生)発展期

義務教育の総まとめとして、中期までに学んだことを発展させる指導を実施する。子ども一人一人の個性や可能性を高め、社会に参画する力を育成する。

(2) 中期過程における教科担任制の導入

教科担任制推進の目的

- ① 児童の学力の向上
- ② 複数の教員が多面的に児童を理解
- ③ 中1ギャップの解消
- ④ 教員の働き方改革

学習が高度化する小学校高学年において、各教科の系統性を踏まえ、専門性の高い教科指導を行い、教育の質の向上を図る。

また、思春期に差し掛かる多感な時期を迎える子どもたちを複数の教員が関わることにより多様な価値観、多様な対応により指導する。

理科、算数、英語等が先行対象になるのは、多くの小学校教員が英語指導の教育を受けてきていないという実態や理数教科に対する苦手意識を持っている小学校教員が多いという実態による。

3 義務教育学校(小中一貫教育)ですすめる教育活動

(1) 特色ある教育

○グローバル化への対応(英語教育の推進)

9年間の系統的なカリキュラムに基づき、1年生から英語教育を進める。特に、5・6年生からは、専科制※を導入し、より専門性を高めた指導を行う。また、9年生での実用英語検定技能(英検)3級以上取得をめざす。

- ・5年生以上は、専科教員による指導
- ・全学年にALT※を配置
- ・学校を英検の準会場とすることによる受験機会の拡充

※専科制・・・学級担任ではなく、教科を専門的に担任する教員により指導を行うこと。

※ALT(Assistant Language Teacher)・・・日本人の教員を補佐し、主に会話の指導にあたる外国語補助教員

○「和(やわらぎ)」プロジェクトの推進

ふるさと王寺の理解と愛着を育む教育として、王寺の地理や歴史、自然などを学び、地域の一員としての関わり方を考え、実践することを通して、将来にわたり、ふるさと王寺を愛し誇れる人間の育成を進める。

- ・「王寺を知る」
明神山登山、童話『聖徳太子と愛犬雪丸のものがたり』の活用、校区探検、
『わたしたちのまち王寺』(副読本)、『やさしく読める王寺町の歴史』の活用

- ・「王寺を考える」
町長出前授業、大和川防災教育('57 水害)、みちびきの像※の学習、
中学生議会

- ・「王寺に関わる」
子ども一日町長、中学生議会、防災訓練、クリーンキャンペーン

※みちびきの像・・・町のシンボル「和の鐘」の横に位置する子どもたちの銅像。

1956年4月登校中の児童の列にトラックが突っ込み死傷を負った事故を語り継ごうと設置され、交通安全のシンボルとなっている。

○情報化への対応(プログラミング教育・ICT 活用の推進)

・プログラミング教育

小学校からプログラミング教育を系統的に行い、論理的思考力を高め、情報活用能力の育成を進める。

○AI を活用した個別最適化学習

スタディ・ログ(学習履歴)の AI による分析を活用して、一人一人に適した学習を行う。

- ・令和4年度から5、6年生で実施
- ・一人一台のタブレット型PCを活用して実施
- ・レコメンドシート※の活用

※レコメンドシート・・・AI が分析した結果を生かした一人ひとりの児童に応じた個別の学習教材

○リーディングスキル(読解力)の向上

すべての学習の基盤となる読解力を向上させ、問題解決に必要な情報を様々な方法で収集・選択・比較・分類して、読み解く力と自分の考えを表現し深めていく力を育む。

- ・読解を意識した学習の実施
- ・リーディングスキルテストの活用

○メディアセンターを活用した探究学習

ICT や図書などの様々な情報や資料を組み合わせ、子どもたちの好奇心をかき立て、自ら課題を見つけ解決していく学習活動の充実を図る。

- ・図書資料とインターネットを活用した調べ学習
- ・タブレット型PCを活用したグループ学習

○異学年交流で心の教育

1年生から9年生までの9歳という年齢差を生かした異学年交流を行い、下級生は上級生への「あこがれ」を、上級生は下級生への「思いやり」の心を育む。

- ・異学年での合同授業、合同給食
- ・たて割りの活動(学校行事)
- ・児童生徒会による集会活動

○豊かな人間性と社会性の育成

高齢者との昔遊びを通しての交流や様々な職種の方による講話等、新設されるランチルームを活用し、給食を共にするなど様々な体験活動により地域の方々と
の交流を通してコミュニケーションを図り、人と人とのつながりを深める。

- ・地域の方々とのお会食
- ・ボランティアの方々とのお交流

○5年生から部活動に参加

5年生から様々な部活動に参加し、共に活動することを通して、体力の向上や
豊かな情操を育み、責任感や連帯感を培う。

- ・選択制で多様な部活動を体験

(2) 全教職員がつながる指導

○9年間の系統的なカリキュラムの作成(『学びの連続性を確保』する取組)

9年間の系統的・計画的なカリキュラムを作成し、指導方法を統一する。

(例) 社会・・・6年生で人物や文化遺産に焦点を当てて歴史の学習を進め、7年
生から9年生で歴史の流れを理解する学習につなげる。

理科・・・6年生で「人体のしくみ」を学習し、その学習を踏まえて8年生で、
「人体の器官」の働きの学習へとつなげる。

算数・数学・・・6年生で学習する線対称や点対称が、7年生で図形の対称
移動の学習へとつなげる。

また、各教科において、課題がみられる学習内容を整理し、9年間計画的に繰り返
し丁寧に指導することで、子どもたちの理解がより深まる授業を行う。

○相互乗り入れ授業による学力の向上

- ・中学校の専門性を生かした指導

中学校教員の専門性を生かした指導を取り入れることにより、子どもたちの学習意欲や学力の向上を図る。例えば、中学校の理科教員による化学実験の指導や体育教員による実技指導

・小学校教員によるきめ細かな指導

小学校教員のきめ細かな指導を生かすように中学校教員と協働してチーム・ティーチング※を行うことで、一人一人に応じた学習を実現し、主体的に学習する態度を育成する。

※チームティーチング・・・ひとつの学級を数名の教員が協力しながら指導する授業の形態。

○生徒指導の充実

めざす子ども像などを全教職員が共有して教育活動を行うことで、学校生活や学習のきまりを定着させ、9年間一貫した指導を徹底する。

- ・9年間を見通した生徒指導方針の作成
- ・子どもたちの状況を共有し、きめ細かな指導の実現
- ・迅速な対応と連携

○教育相談の充実

子どもたちの状況や子どもたちが発するサインを見逃さないよう全教職員で把握し、9年間継続した支援を行う。

- ・年間計画に「学校生活アンケート」など教育相談の機会の位置付け
- ・生徒指導主事・主任を中心に、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員などの専門家や教育委員会をはじめとした関係機関とも連携した「チーム学校」としての組織的な対応

○特別支援教育の充実

特別な支援を必要とする子どもの中には、小学校から中学校への進学に際して急激な変化に伴い、強いとまどいや混乱を感じ、学校生活への不安などを引き起こすことがある。義務教育学校では、9年間一貫した義務教育学校となることで、これまでの小中間の段差が解消され、子どもの精神的・身体的な負担が軽減できる。

・小・中学校教職員の共通理解のもと、特別な支援を必要とする子どもたち一人一人の発達段階や発達特性に応じた系統的・計画的な個別の教育支援計画・指導計画の作成をする。

・9年間を見通した一人一人の子どもに応じたきめ細かな合理的配慮※の実施を行う。

※合理的配慮・・・障がいのある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受けるあたりに必要かつ適当な変更や調整を行うこと。

例 バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点を踏まえた施設設備（エレベーター、スロープ等）

例 一人一人の状態に応じた教材の確保（ICT機器、デジタル教材、拡大教科書等）

○通級指導教室の開設

障害の程度が比較的軽度である児童生徒に対し、早い段階から一人一人の障害に合わせ、話すこと、聞くことなどの学習や友達との関わり方などの指導を行い、学習上や生活上の困難を改善することを目的とする。

(3) 地域とともにある学校

○学校運営協議会（コミュニティースクール）の仕組みづくり

学校と地域住民等が目標やビジョンを共有し、力を合わせて学校運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」を実現するための有効な仕組みを構築する。

・新設される「地域交流室」を活用し、学校・家庭・地域がお互いの課題や情報を共有し、実態に応じた「地域とともにある学校づくり」を進める。

○地域人材の活用

学校・家庭・地域がより一層の連携を深めて、多彩な人材に学校教育を支援してもらうことで、より質の高い教育内容の提供に努める。

・ゲストティーチャー（キャリア教育、防災教育、教科指導等）

・部活動指導員

- ・学校支援ボランティア（学習支援、学校行事補助等）
- ・地域ぐるみで、児童生徒の登下校の安全を見守る「学校見守りボランティア」

○「あいさつ+1」運動の推進

子どもたちの規範意識の向上を図り、青少年を非行や犯罪から守るため、さわやかなあいさつが飛び交うまちをめざす。

- ・児童会・生徒会によるあいさつ運動
- ・王寺工業高等学校（日本一礼儀正しい学校と言われている）との連携

○雪丸サポートスクールの充実

教職員経験者や大学生等、地域の人材がサポートスタッフとして、放課後や長期休業日などを活用して、4年生から9年生の児童生徒を対象に一人一人の学力向上と学習習慣の涵養、学習意欲の向上をめざす。

4 特色ある施設・設備

「王寺っ子の夢と希望をかなえる学校」として、9年間一貫した特色のある教育を展開できる義務教育学校の整備を進める。

【王寺北義務教育学校】

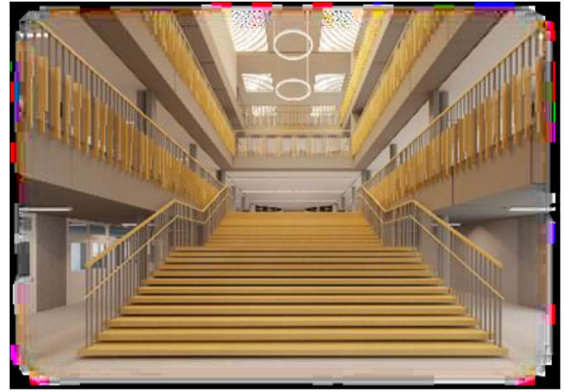
新校舎建設のコンセプト

①交流・連携を促す工夫

- ・メディアセンターを児童生徒が利用しやすい昇降口付近に設け、行き来する子どもたちを大階段でつなぎ異学年交流を図る。



メディアセンターのイメージ



大階段吹き抜けのイメージ

- ・各学年ユニット(4-3-2)の学年区分をベースに設けた多目的スペースや多目的教室により、多様な学習形態に対応する学年交流空間を創造する。



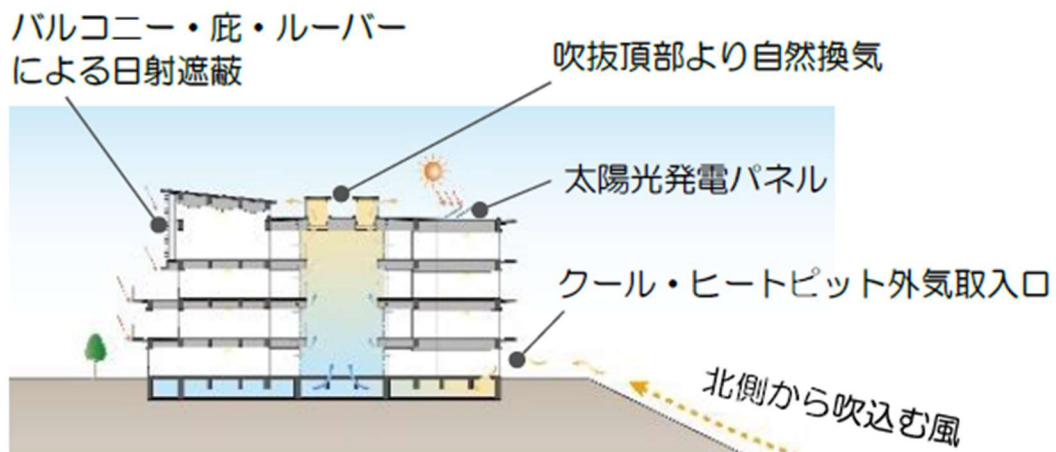
多目的スペースのイメージ



ランチルームのイメージ

- ・地域とともにある学校づくりの拠点、交流・連携の場としてランチルームを設置し、地域住民等との交流、異学年交流を推進する。

②快適な学習環境と省エネ



・明るく風通しの良い校舎となるよう、校舎中央の吹抜には、トップライトを設け、自然採光・自然換気を促進し、クール・ヒートピットによる換気・温度緩和や太陽光発電による自然エネルギーを活用する。



・普通教室は、全て南向きの明るく快適な教室としている。

・学習環境の充実を図るため将来を見越したICT環境（10ギガの高速インターネット）を整備している。

③安全と災害への備え



- ・バリアフリーへの配慮、ユニバーサルデザインの採用。
- ・防犯対策として、門扉やフェンスによる学校境界の可視化、防犯カメラの設置。
- ・教師ステーションの配置により、日常的に子どもたちの生活を見守る工夫。
- ・屋内運動場棟を避難施設として利用最適な防災拠点機能を確保。

【王寺南義務教育学校】

大規模改修のコンセプト

児童生徒、教職員や地域住民等の「心をつなぐ」、施設分離型の校舎の「学びをつなぐ」、学校の歴史など「誇をつなぐ」工夫をテーマとし改修を行い、大規模改修のコンセプトを「つなぐ」とした。

①学習・生活環境の質の向上

○畠田学舎（現 王寺南中学校）の増築校舎

校舎東側の増築は、職員室を拡張するとともに、保健室・特別支援教室を配置し、ともに連携を取りやすくする。また、2階のメディアセンターとPC教室は、一体利用も可能な自由度の高い情報教育の場とする。



○普通教室

普通教室は、多目的教室とともに各学年の教育課程に応じ、各学年区分をベースに連携を考慮して各階に同一学年を構成し配置する。

○特別教室

特別教室は、普通教室からのアクセスや関連性の高い教科の教室を同一階に集約配置する。

○特別支援教室

特別支援教室は、特別な支援を要する児童生徒数の増減や発達特性や発達段階に応じたきめ細かな支援ができるよう、可動式の間仕切りを設ける。

○便所

乾式化・洋式化により、清潔で明るい便所にする。



②交流・連携を促す工夫

○メディアセンター

太子学舎（現 王寺南小学校）は現況の図書室をメディアセンターとして刷新し、スペースの拡大とともにICT環境の整備を行った。

畠田学舎は増築校舎に新たにメディアセンターを設け、義務教育学校の開校を象徴する場所として整備を行う。



○ランチルーム

太子学舎はメディアセンターに隣接する形でランチルームを設け、児童生徒が集い、交流が活性化する場所として計画する。畠田学舎は給食施設棟の廃止に伴い、建物の一部をランチルームとすることで有効利用を図る。

○交流センター

王寺北義務教育学校の新たな給食センターの開設に伴い、現 王寺南中学校の給食施設棟は、会議室・ランチルーム・地域交流室・学童保育教室に改修し、異学年交流や地域交流の場とする。

③安全と災害への備え

○バリアフリー化・ユニバーサルデザインへの対応

スロープの設置や段差解消、多目的トイレの整備など誰もが利用しやすい施設に改修する。

○エレベーター棟の増築

エレベーター棟を増築することで、車椅子等の児童生徒の安全確保、また、給食配膳時の安全も確保する。

○屋内運動場

屋内運動場は便所、内装等のリニューアルを行い、避難施設としての機能充実を図る。

6 校歌

・作詞は、町民や各小中学校の児童・生徒などから寄せられた「言葉・フレーズ」と各小中学校の校歌を参考にしながら、国語科・音楽科専科教員等学校関係者で構成する「校歌作成委員会」で検討し、作成した。

王寺北義務教育学校校歌

- 一 大和(やまと)の流(なが)れ 和(やわ)らぐ陽(ひ)
いにしえの学窓(まど) 風青(かぜあお)し
大志(たいし)を秘(ひ)めて 立(た)ち上(あ)がれ
王寺北(おうじきた) 傍丘(かたおか)に輝(かがや)く

- 二 学(まな)びの庭(にわ)に 梅百花(うめひゃっか)
清(きよ)き心(こころ) 育(はぐく)む地(ち)
仲間(とも)と育(そだ)ち 共(とも)に生(い)き
王寺北(おうじきた) 傍丘(かたおか)に咲(さ)く

- 三 夢(ゆめ)と希望(きぼう)に 満(み)ちあふれ
九年(くねん)の学(まな)び 未来(みらい)へと
伸(の)びゆく我(われ)らの 歌声(うたごえ)よ
王寺北(おうじきた) 傍丘(かたおか)に響(ひび)け

王寺南義務教育学校校歌

一 希望(きぼう)の風(かぜ)が 吹(ふ)き渡(わた)る
緑(みどり)の学舎(まなびや) 明神(みょうじん)に
和(やわ)らぎの心(こころ) この地(ち)に育(そだ)て
輝(かがや)け 我(われ)ら 王寺(おうじ)南(みなみ)
輝(かがや)け 我(われ)ら伸(の)びゆく

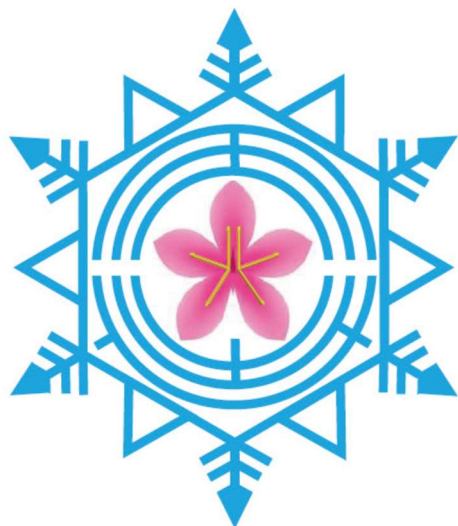
二 友情(ゆうじょう)の花(はな) 咲(さ)かせよう
手(て)を取(と)り合(あ)って いざ行(ゆ)かん
信(しん)じる心(こころ) この地(ち)に育(そだ)て
繋(つな)がれ 我(われ)ら 王寺南(おうじみなみ)
繋(つな)がれ 我(われ)らは一(ひと)つ

三 夢(ゆめ)ある限(かぎ)り 突(つ)き進(すす)む
翼(つばさ)を広(ひろ)げ 大空(おおぞら)に
凜々(りり)しき心(こころ) この地(ち)に育(そだ)て
翔(と)び立(た)て 我(われ)ら 王寺南(おうじみなみ)
翔(と)び立(た)て 我(われ)ら羽搏(はばた)く

子どもたちが王寺の町と新しき義務教育学校に誇りを持ち、胸を張って堂々と歌えるようになることの願いを込めて作成した。

7 校章

王寺北義務教育学校



王寺南義務教育学校



中央の半円は「王」と「寺」の文字をデザイン化。また、「友情の和（輪）」、「先生と児童生徒の和（輪）」、「地域との和（輪）」を表す三重の輪をイメージしています。中央には町花の「さつき」を配置し、花の形は「北」の文字を表現したもの。周囲のデザインは、雪の結晶等の王寺中学校の校章の由来を引き継ぎました。

中央に「梅は百花のさきがけ」と言われる王寺町の木「梅」の花、左右に、地域に育ち、親しみやすく長い間咲き誇る王寺町の花「さつき」の若葉を配し、伸びゆく若者を表しています。中央には「王南」の文字を配置しています。